

句集

のようなもの

三浦 礼未

句集

のよくなもの

四季折々写真集

三浦 礼未

## はじめに

長い間詩や小説や分析文は書いてきましたが五七五で書く俳句や川柳のようなものはなかなか難しく本格的に手を付けることができませんでした。

で、ここに来て一念発起、この二年余りの間に書き溜めたものを一緒に撮った写真の力を借りて一冊にまとめ初の句集「のようなもの」を作ってみました。なんで「のようなもの」と名付けたかというと、目指したのは私の祖父が詠んでいた今風に言えばニューウェーブ川柳。しかしできたものは川柳だか俳句だか実に中途半端なものでしたので。

川柳は人事を描くもの。そしてそこに俳句のような風合いを載せる。私の祖父は川柳の先生をしていました。滑稽・諧謔だけに流れない川柳を詠んでいました。

一応その境地を目指したものの、人事を描くことは難しく。まずは手習いとして俳句的な季節や風景を詠んでみました。

まだまだつたないものではありませんが「とある地方の四季」を写真と  
もどもお楽しみください。

夏日差し  
雨水に涼む  
黒き蝶



雨あがる 道にこぼれた 空の青



ひまわりも 顔を背ける 熱陽射し



頭（こうべ）たれ  
日焼け待ちたる  
稲穂かな



山際に  
取り残され雲  
嵐去る



秋

影の溝  
秋陽穿って  
バイク止め



そばの花  
新蕎麦楽しみ  
早よ食いたい





空高し  
童話のような雲  
ばかり



もくもくと  
山を彩る  
紅葉かな



木枯らしに

落ち葉じゃれ合おう

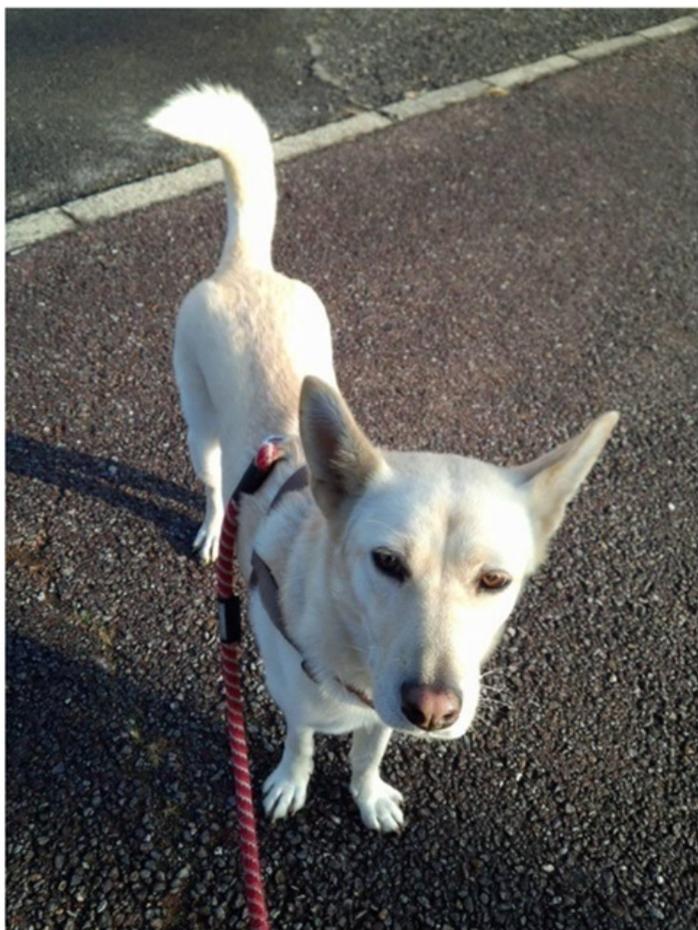
子らのよう

鮮烈に  
紅葉吹雪は  
陽を映し



冬

氷雨やみ  
ポカポカ寒い  
散歩道

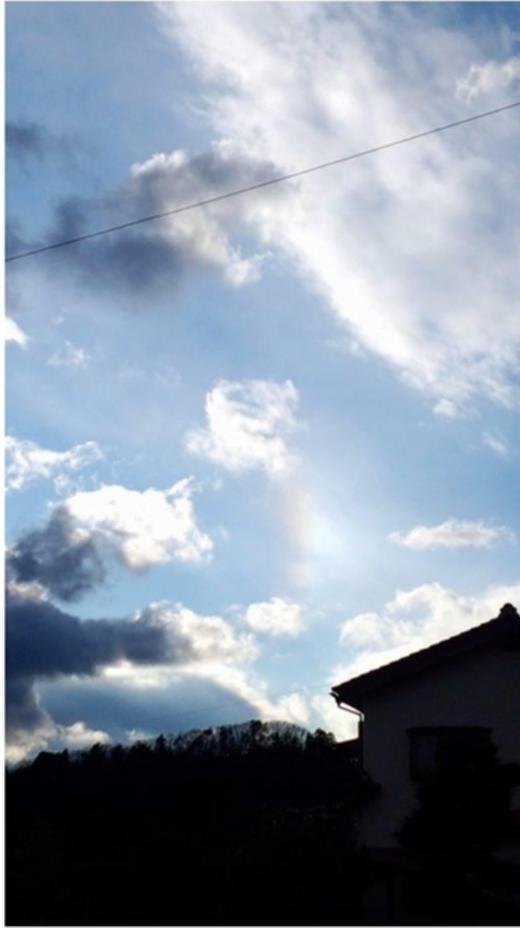


秋深し  
こたつ一番  
犬もぐり



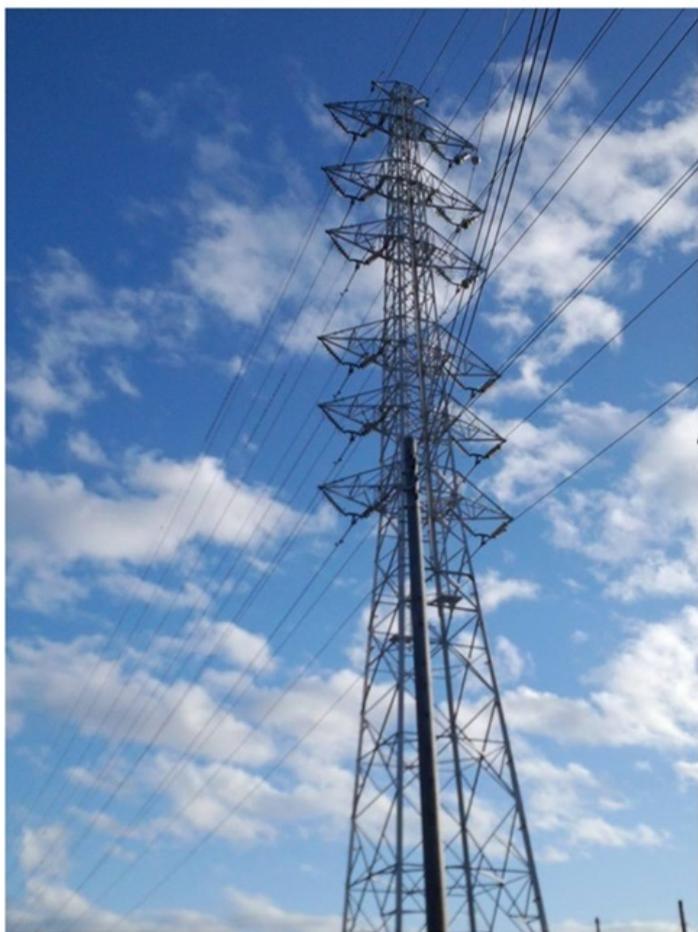
青空に  
梅が枝透ける  
烏瓜





春

雪明けて  
鉄塔遊ぶ  
春日差し



雪溶けて  
春を待ちたる  
田畝かな



早春の  
川面の光と  
散歩する



かいた雪  
溶けて雪像  
並ぶ道



青空に  
春の膨らむ  
梅の枝



ぬくぬくと  
ひなたに集う  
福寿草



街の雪  
溶け初む雨の  
あたたかさ



雨上がり  
里に靄立つ  
雪とかし



青空に  
心うばわる  
梅の花









田鏡に  
新緑映し  
田植え待つ



里山も  
花簪か  
艶めいて



# 初夏

見上げれば  
梢若葉の  
深い森



山里に  
雪崩落ちるか  
若緑



艶やかに  
きらめく青葉  
また青葉



もう夏か  
ひざしきらめく  
麦の秋



あとがき

私の父方の祖父が亡くなったのはもうかなり昔の話です。その少し前、私の初めての詩集を贈りました。自分と同じ文字のほうに進んだ子供や孫がほかにいなかったせいか、とても喜んでくれました。

その後、いくつかネットの方で詩集をつくりましたが、祖父の温かく機微に満ちたしかも風合いのある川柳の魅力に自分も作ってみたくなり、ときどき五七五でまねごとはしていたものこのままで本気で作ろうとは思っていませんでした。

夏から初夏までのほぼ一年の記録です。句だけでは心もとないのでも  
41  
う一つ好きな写真(といっても最近スマホばかりですが)と合わせて何とか一冊にしてみました。できればこれからも続けていきたいと思っていますが、気分の問題でもあるのでどうなるかはわかりません。でも意欲は一応あつたりします。

お読みくださり本当にありがとうございました。とある地方都市の田舎の方のほのぼのした風景を楽しんでいただければ幸いです。

二〇一四年六月七日

句集 のようなもの

著者 三浦礼未

2014年6月7日

発行 飛天逍遥

## 句集 のようなもの

<http://p.booklog.jp/book/86853>

著者：三浦礼未

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/remi-miura/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/86853>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/86853>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ